

令和4年度宮代町廃棄物処理検討委員会

第14回会議録

1 日時・場所

令和4年11月16日（水） 14:30～16:40

進修館 小ホール

2 出席者

審議会委員：11名出席

雨宮会長、吉田副会長、小島委員、小林委員、小室委員、式田委員、神田委員、
小矢島委員、唐澤委員、須藤委員、横尾委員

事務局

環境資源課：伊東課長、小林主幹、田邊主査

コンサルタント

株式会社 日水コン

傍聴者 0名

3 開会

4 会長挨拶

5 議題

(1) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 施策案

・資料1について田邊主査から内容説明

雨宮会長：はい、ご説明ありがとうございました。それでは、ここまでの資料の説明に関して、ご質問あるいはご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。それでは、引き続き、資料2の説明をお願いします。

(2) ごみ処理量の予測及び将来目標数値について

・資料2について田邊主査から内容説明

雨宮会長：ありがとうございました。本日、配布された「まちづくりデータブック」67ページの人口の表に関する説明はありますか。

田邊主査：資料2最初の将来人口の設定では合計値だけを掲載しているのですが、このデータブックの数値は年齢階層毎の人口を掲載しています。自然減になる部分ですとか、新しい方の転入、他の市町村への転出、ライフスタイルなども年齢別にあるかと思しますので、それぞれ年齢毎にはこういう動きがあるということで、参考に用意させていただいたものです。

雨宮会長：ありがとうございます。それでは今のご説明、多少複雑なところもあったのですが、丁寧に説明をしていただき、わかりやすかったかと思えます。ご質問、コメント等ありましたら、お願いします。それでは一旦休憩の時間を入れたいと思えます。

－休憩－

唐澤委員：宮代町の人口ですが、ふれあいタウンという町議会議員の金子さんが出しているものに詳しく載っているのを持ってきました。先ほどいただいた資料の数字とは若干違うのですが、65歳以上の男性が5,069人、女性が11,095人、合計16,164人で、町民の2人に1人が65歳以上なのです。長く商売をやっていると、来られるお客さんも皆さん高齢になっていきますので、何らかの持病を持っている方が多いです。血圧ですとか糖尿病ですとか。そうしますと、握りを小さくして欲しい、これとこれは出さないで欲しい、などよく知っています。医者から指示を受け、薬もたくさんもらっているの。正直、あまりごみは出ないです。埼玉県内には商店街が1,000か所あり、そのうち元気のいい商店街は12商店街です。これは7、8年前のデータです。新型コロナウイルスの感染が拡大してから4年間で商店街、飲食店は痛めつけられていますから、かなり数字は減っているかと思えます。宮代町にも歴史が60年以上ある百間新道という商店街がありましたが、一昨年に解散しました。宮代町を支えた商店街がなくなったのは誠に残念です。百間新道には何でもありました。自転車屋、魚屋、八百屋、花屋など、何でもありました。味噌などは量り売りで買いに行きました。醤油もびんを持って量り売りで買ってきました。納豆なんかは、朝、自転車で売りに来ました。言いたいのは、商店街が減り、購買力が弱っているということです。ごみが多いのは、商売の売り上げがあるからです。景気が良い時と比較してごみが激減します。売り上げが激減しているからです。売り上げとごみの量は比例しています。

雨宮会長：今日は最後から2回前の会議で時間に少し余裕があるということですので、多くの意見をお願いしたいと思えます。

小室委員：第3回、第4回の委員会で言いましたが、プラスチックを燃やすだけなら、何の努力もいらないわけです。今、ペットボトルにラベルやキャップがついているものがすごくあります。一方、久喜の八甫清掃センターのものはものすごくきれいなわけです。どう違うかということ、八甫清掃センターのものはトン当た

り2万円高く買ってくれるのです。もし宮代町でも同じようにきれいにしたら2万円増える、しかも年間450tですから900万円増えるわけです。ペットボトルのラベルをはがす、キャップを外す、洗うという、消費者の皆さんがそういう努力をすることでこれだけの違いが出る、それだけ世の中厳しくなっています。同じ久喜宮代衛生組合の区域内でも、それができている地域もあるわけです。第4回委員会の際に調べてもらったところ、八甫清掃センターはトン当たり48,484円、久喜宮代清掃センターはトン当たり21,000円でした。これだけ違うわけです。25,000円違ったら、しかも年間446t、約450tですから約1,000万円違うわけです。せめてそれだけの努力をして、プラスチックを燃やすということをやってはどうですかと、当時からそう言っているのです。単に処理方法が変更になったからと言って、右から左へ燃やすというのではなく、ペットボトルをきれいにしておいて、その分ラベルやキャップは増えますが、それは仕方ないです。リサイクル協会から入るお金が25,000円くらい違うわけで、せめてそういう努力をしませんか。そういうものを付帯決議などとして付けて欲しい。そういう話を最初からしているつもりです。

両宮会長：ありがとうございました。なかなか大事な話でしたが、事務局として、今のペットボトルについての意見について、何かありませんでしょうか。

田邊主査：ご意見、ありがとうございます。確かに同じ久喜宮代衛生組合管内でも、八甫清掃センターと久喜宮代清掃センターでペットボトルの処理方法が違い、そこで売却益に差が出てしまっているのは事実です。八甫清掃センターはペットボトルだけの収集で、キャップもラベルも外して出すというのが通常の集積ルールとして成り立っています。一方で久喜宮代清掃センターは、びん、缶、ペットボトルを混合で、1つの袋にまとめて出していいというルールになっています。そこで何が違ってくるかという、混合してしまうと、いくらペットボトルをきれいにしても、びんや缶と一緒に入れることで傷が入るなど、ペットボトルの質が落ちてしまい、売却単価の低下につながるのかなと考えています。集積所に出すルールを変えられるかどうかについては、ここでは申し上げられない状況です。もし分別ルールを変えらるとなると、今はびん、缶、ペットボトルをひとまとめで1回出せるところを、ペットボトルで袋1つ、びんで袋1つ、缶で袋1つとなって複雑になっていくというのも心配事としてあります。また、入れる袋の数が増えるということにもなります。最速でできることというのは、小室委員が言われたようにきちんとキャップを取り、きちんとラベルを取り、余計なものが入らないルールをきちんと守って、少しでもいいリサイクルの状態に持って行きましょう、ということだと思います。委員の皆さんは、きちんとキャップやラベルを取られていると思いますが、集積所を見ていると、取ら

れていない状況も多々見受けられます。そこで、今の時点ですぐ取り組めることとしては、行政側として、「ラベルを取る、キャップを外すということをきちんと行って欲しい。何故ならば」ということを、きちんと理由を示した上で啓発していくことが必要になってくると、意見をいただいて改めて思いました。プラスチック類の取り扱いが変わるなどの大きな流れがありますが、ペットボトルの排出方法などについては引き続き、町民の皆様に啓発していきたいと思えます。

両宮会長：ありがとうございます。まさに啓発が重要かと思えます。きれいに排出することで収入も増えると思えます。他にはいかがでしょうか。

横尾委員：目標4の資源化のことを聞いていまして、資源化を熱心にやっている方のことを思い出しました。この方は、剪定している枝葉ですとか、繊維、もとは綿ですね、それを一緒にして紙を作っているという話を聞きました。今まで資源化していたプラスチックを燃やすことでリサイクル率が下がるので、これを上げる方法を考えると良いのでは、ということでこの方を思い出したのです。

その方は、もう25～26年になりますが、笠原小学校でケナフを育て、卒業証書を作っています。県ではケナフで作った紙を表彰状などに使っていますよね。だんだんと数字を上げていくのに関係あるかなと私なりに考えたのです。岩槻だったと思いますが、衛生組合のカレンダーは、そのパルプを使っているようなので、近々、もっと詳しい話を聞いてみようと思えます。

両宮会長：事務局、いかがですか。

田邊主査：ご意見、ありがとうございます。パルプの原料になるものを、燃やせるごみなどに回してしまうと、リサイクルにも回らないので、リサイクル率の向上にも寄与しないこととなります。しかし、他のものに転用できるような流れがあり、そもそもごみにも資源物にもならず、衛生組合で処理するものにならないという流れができているのであれば、そちらがなおいと考えます。

両宮会長：本当にそのとおりで、捨ててしまうはずのものを使えるものに、例えば剪定枝を何かに使うということは、小さいことであっても、出すごみを減らし、有効なものに変えて使うということで効果的です。別の所へ持って行って捨てるとかではなく、何か有効なものに変えて使うのは、個人でやるにしろ、仲間同士でやるにしろ、非常に良いことかと思えます。

須藤委員：3番のごみ処理量の予測結果ですか、事業系ごみの資源の合計が令和3年度から大きく減っているのですが、これは何故ですか。

中村氏（日水コン）：私の方から説明させていただきます。衛生組合では、令和3年度から、事業系の資源物の搬入の基準を厳しくしたということです。例えば金属類などは、事業所から出されるものは、そのほとんどが産業廃棄物に該当することになるのですが、この搬入の基準を厳しくした結果、資源物の量は令和2年

度から令和3年度にかけて半減し、今後もこの基準で継続するということでした。

雨宮会長：ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

小林委員：2点あります。1点目は小室委員からも話があったペットボトルのラベルを取ることです。これを取る、取らないでどれくらい変わるのかということ、一般の方はどう考えているのかな、ということです。ラベルを取ると利益が還元されるということを知らなくて、そのまま面倒くさいからと捨てているのではないのでしょうか。それを取ることで皆さんにとってもいいことがあるのだということアピールすることによって、きちんと取る方が少しは増えるようになるのではないのでしょうか。私もこの委員会に出席させていただき、ここでいろいろな話を聞くことで、ペットボトルのラベルはきちんと取るようになりました。この委員会へ何度も出席して自分たちにも還元されるということアピールされていると自分で思っている。自分達にも還元されるということがわからないと、自分一人くらいやろうがやるまいが関係ないだろうと思っている人に対しても、いろいろところでメリットがあることを示していくと、意識が変わる方も増えてくるのではないのでしょうか。2点目は、レジでの包装についてです。家の近くにスーパーがあり、よく買い物に行きます。そこで惣菜、麻婆豆腐やプラスチックの小さい容器に入っているものを買ってレジへ持って行くと、汁が漏れないようにするためか、レジで袋に1つずつ入れてくれる方がいます。1個、1個入れるので、そこまでする必要はあるのかなと思います。またお客さんの中で、スーパーのサッカー台にあるビニールの袋をたくさん使う人がいます。これは、その人の意識の問題だと思いますが、レジで1つずつ袋に入れるのは、しない方もたくさんおられるので、あそこまでする方はどうなのかなと思います。あれを減らすだけでもかなり変わるのではないかと、それをどういうふうに伝えるのがいいのかわからないです。レジで、ここは早いと思って並んでも、1個、1個入れるので時間もかかり、これは無駄じゃないからやっているのだらうな。人によってはそういうことをしない方もいるので、すごく疑問です。やはり、1つずつ入れた方がいいのでしょうか、汁物などがあると仕方がないのでしょうか。例えば2つ一緒に入れるなど、あると思うのですが。しかし、ごみに繋がるのではないかと考えてしまいます。

雨宮会長：今のお話、過剰包装なのか、必然的なことなのかの境目ということかと思えます。わかりにくいところかと思えます。

吉田副会長：小林委員の話、そういう場面、私もたくさん見かけます。レジの人によって違うということもあります。私の場合、籠を持って買い物に行きます。籠の中に敷物を敷いてありますので、大丈夫ですと断ります。お客様によってはそういうものを持たないで、仕事の帰りなどで袋を持っていない場合などはそれも

必要なのかなと思いますが、個人個人の意識の問題だと思うのです。個人個人が、皆さんにどう伝えて意識を変えるか、右から左にとはいかないとは思いますが、皆さんにどう伝えて意識を変えるか、右から左にとはいかないとは思いますが、貼紙をしていただくとか、そういう提案もできるのではないかと思います。ペットボトルのラベルのことですが、ここで、そのとおりだと思うことがたくさんありまして、自分が参加しているサークルの中などで、買い物のこと、ラベルのこと、ごみ出しのことなど、責任を持ってきっちりやりましようと思われたいと思います。

雨宮会長：町のごみをどう減らすか、減らすという意識をすること、今まで持っていなかったことを自分なりに意識していくことが大事かと思えます。意識の高い方であればいいのですが、多くの方はそういうところに注意を向けていないということもあります。それが、過剰包装をそのままにしまおうとか、そういうことに気が付かないことになると思えますので、お互いにそういうことを言い合えるようになると、変わってくるのではないかと思います。事務局から何かありますか。

田邊主査：今、いろいろご意見をいただいて、ペットボトルのラベルを取るとメリットがある。今だとやってもやらなくてもみたいな感じですが、そういうメリットがわかると、自分事として捉えられる。自分事になると頑張るといえると思うので、そういう働きかけをしていく必要があるかと思えます。過剰包装については、スーパーではサービス、購入いただいたものが他の商品の水分で濡れてぐちゃぐちゃになって欲しくないというサービス、おもてなしとしてそういう対策を取られていると思います。サービスを提供する側から、ご協力くださいとアナウンスできるかもしれませんが、それもなかなか難しいと思うので、サービスを受ける側から断る勇気を持って行くことも必要かなと思うので、啓発の観点の一つかなと感じました。

雨宮会長：ありがとうございます。場合によってはスーパーや店の方にも、意識をもって、過剰なものを減らしていこう、そういう協力を求めていくことも必要になるのではないかと思います。

小矢島委員：先ほどの意見でペットボトルの件、年間で1,000万円になると聞いたのですが、結局1,000万円がどういう使われ方をするのかということを示していくことが必要かと思えます。我々自身にその1,000万円が還ってくる、その1,000万円をこう使うことで、それによって生活が少しでもよくなりますと、そういう評価、PRをする必要があると思うのです。だからきちんと蓋は蓋、ラベルはラベルと分けることが必要で、その結果、町としては1,000万円浮くのだと。その1,000万円がこういう形で使われるので、我々の生活も少しは良くなるというストーリーを作ってPRしていくのも一つの手かと思ったのです。個人個人のメリットではなく、町としてのメリット、我々

の生活条件が良くなるメリット、そのために1,000万円が使われる。そのようにプラスの部分で考えたらいいのかなと感じました。5年たったら5,000万円、大きいですね。そういう使われ方を今後、廃棄物の問題に還元するというところでよろしいのではないかと思います。レジの話は難しい問題もありまして、生活シーンを考えると、宮代町では35,000人ほどの人が生活していますが、世帯のそれぞれで価値観が違い、統一することは難しいと思います。そのため自分で必要がないと思う人は、自分から断ることで終わるのではないかと思います。作ってくれるのを待つのではなく、自分から断る、レジの人に教えてあげるのがいいと思います。レジの方はいろいろとサービスや鮮度の問題などを考えていますので。どちらが良いか難しいところはありますが、自分にあったやり方、満足できるやり方でできればいいと感じました。接客の問題ですが、コンビニなどで5、6個の物を買った時、カウンターの中のアルバイトの方が、自分が持っていった袋と一緒に入れてくれるといいのですが、人によってはただ見ていて手伝ってくれない人もいます。清算した後、後ろには次のお客さんもいますし、袋に入れなくてはいけないのですが、手伝ってくれない人もいます。手伝ってくれる人もいますし、一概には言えないのですが、見ているのであれば袋に入れるのを手伝ってあげるとか。人によりますし、同じ接客でも一人一人の考えが違って来る、そういう時代になっていますから、自分で気を付けて、自分の価値観で判断して、できなければやってあげる。あるいは、こちらから入れるのを手伝ってくださいと言うことで気が付くと思うのです。そういうやり方をお互いに考えていただければ、良い方向へ進むのではないかと思います。

両宮会長：とても重要な話だったかと思います。店は、お客様からの意見を頂戴する仕組みを設けられているところが多いと思います。しかし、感じて書かない、面倒だから何も残さない、という方も多いと思います。こうした方がいいという提案は、店は受け付けるはずなので、率直に出した方がいいと思います。

小室委員：久喜宮代衛生組合に以前から言っているのですが、燃やせるごみは緑の指定袋、燃やせないごみは赤の指定袋、資源プラスチック類は透明・無色半透明の袋かレジ袋で出すことになっています。レジ袋は、以前だとスーパーでただでもらえたから良かったのですが、今は袋を手当てすることが大変になってきているわけです。スーパーに普段から行く人はいいですが、お年寄りとかだんだん大変になってきています。以前から、組合には安い袋を作って欲しいとお願いしていたのですが、組合がなくなると町がやらなくてはいけなくなります。スーパーのレジ袋も買うとしたら1枚5円とか高くなってきていますが、その袋に入れないとプラごみを持って行ってくれないわけで、その辺もこの先考えていかなければいけないと思っています。以前から組合には言っていたのですが、

行動に移してくれていませんでした。宮代町と組合が分かれるわけですから、当然、次は町で考えなくてはいけない。その辺も含めて検討をお願いしたい。

両宮会長：ありがとうございます。事務局、いかがですか。

田邊主査：ご意見、ありがとうございます。ごみ袋の取り扱いについても組合から町が引き継ぐようになっていくのですが、今日は答えを出せない状況です。令和9年度以降ごみ種も変更が予定されていますので、また改めてごみ袋についてはゼロベースから考えていく作業をしていかななくてはいけないと考えています。今回いただいたご意見の内容も踏まえながら、考えていきたいと思えます。

小室委員：新しくなってプラごみを燃やせるごみと一緒にすると、袋を分ける必要がなくなるのでそれまでの処置ですね。

両宮会長：私から1つ質問させてください。ごみの減量の努力によって何%削減するという話があったのですが、これはいろいろな施策を実施することの効果ということでしょうか。例えば資料の4頁を見ますと、成り行きで令和14年度を推計すると512g/人・日、これをいろいろな施策を実施することで474g/人・日にしたいということだと思います。この施策の内訳といいますか、これまでディスカッションしてきたものがあると思うのですが、どういう取組でどれくらいの効果を見込むことでこの削減に繋がるのかを、もう少し具体的に説明をお願いしたいと思います。

田邊主査：ありがとうございます。いろいろと取り組んでいきたいと思いますという中で、削減効果の大きなものとして、例として3つご紹介します。まず、マイボトルを持っていただくこと。ペットボトルの代わりにマイボトルを持つことで、ペットボトルを1本20g、20歳以上の住民の方の75%が毎日1本利用すると想定した場合ですが、年間の削減効果が15.4t、1人1日当たり1.3gの削減効果があると見込んでいます。食ロスの検討をしていただきましたが、食べ残しの削減、これに取り組んでいただくことによって、削減効果が年間329.2t、1人1日あたり26.8gの削減効果を見込んでいます。資源類にはなってしまうのですが、フリマ等の活用ということで、衣類や書籍等を1回あたり1kg、世帯単位で2週に1度利用すると想定することで、年間の削減効果を113.9t、1人1日あたり9.3gの削減効果を見込んでいます。マイボトルとか、食べ残し、衣類等のフリーマーケット等を活用いただくことで、このような効果が出ます。その他に、レジ袋や先ほど話のあった過剰包装、マイ箸、詰替え可能商品等の利用に取り組んでいただくことで、もっと削減効果が出ると試算しております。

両宮会長：ありがとうございます。そうしますと、フードロスの効果というのがかなり大きいと推定されていますね。それだけ努力しないと削減効果が出ないということかと思えます。フードロスについては委員会の中でも議論しましたが、実際

に実行していかないといけなということかと思えます。フリマの利用というの
がありました。これも委員会の中で出たように、例えばジモティーですとか、
地域での交換をもっと盛んにするということですね。委員会の中でも積極的に
推進して欲しいということでしたので、町全体として実行していく、その辺を
改めて意識していきたいと思えます。他にいかがでしょうか。

式田委員：宮代町ではペットボトルをびん、缶と一緒に出しているということですよ。
それで、きれいにしておけば高く買い取ってもらえるということですが、その
選別はできているのですか。

田邊主査：実際、びん、缶、ペットボトルを収集した後に選別の工場へ運び入れを行い、
それぞれびん類、缶類、ペットボトル類ということで人の手で選別しています。

式田委員：そういうことをやっているのですか。そういうことを町民は知らないですよ。

田邊主査：今年度の広報紙に掲載しています。

小室委員：工場に入ってきた段階で、きれいさが異なる、八甫はきれい。だから48,000
円で買い取ってくれる。宮代は、汚いです。なので21,000円です。
杉戸もペットボトルだけで出しているのもものすごくきれいです。

式田委員：自分では、ペットボトルをきれいにしてお出しています。別の袋に入れて出すと、
袋も多くなる。みんなに教えればよい。こういうことを、広報に書いていると
いっても、一般の人は興味を持たないのではないですか。何らかの形で自分た
ちの身に降りかかってくるようにしないと。

小室委員：久喜宮代衛生組合で、八甫の写真と宮代の写真を比較して、出せば分かりやす
いのではないかなと思っています。

式田委員：宮代はごみの分別ができていないのではないですか。

田邊主査：宮代町では、びん・缶・ペットは混合で排出できることになっています。先ほ
どお伝えした八甫清掃センターは、集積所にペットボトル入れのネットが用意
してあって、そこにペットボトルのみを出しているというところが大きな違い
なのかなと思えます。

小室委員：八甫清掃センターは卵パックに使えるんです。きれいだから。

神田委員：宮代町へ引っ越してくる前は、幸手市に住んでいたのですが、幸手も分かれて
いました。宮代で排出にビニールを使うことでごみが増えるのが嫌だなとは思
っています。新施設になった際には、ビニールは燃えるごみとなるのだから、
そのかわりこのリサイクルを頑張りましょうと、還元されることを住民が知れ
ば実行できるのではないかなと思えます。ワクチンも嫌だなと思いましたが、
500円のありがとう券を貰えると分かればやってみようかなと思ったりし
ます。目標があれば良いと思えます。もうひとつ言えば、キャップだって、社
会福祉協議会に持っていけば、リサイクルになるので、そういうことを考えら
れるようになったらいいかなと思えます。

小室委員：幸手と杉戸は同じですね。

両宮会長：ありがとうございます。キャップはキャップだけで分けると、材質が一緒なので、リサイクルが出来ますよね。また、意識してきれいにするだけでも変わってくるということですね。今の方法だけではだめだというお話もありますが、例えば、有益な資料を用意するなど、工夫して、啓発を進めてもらいたいというところですね。それでは、議題に関しては終わりにしたいと思います。

その他について事務局お願いします。

小林主幹 いろいろと、積極的かつ参考になるご意見をいただき、ありがとうございました。その他については特にございません。次回は12月22日、役場の202会議室で開催します。議論して積み上げていただいた取り組みやアイデアを計画書としてまとめて完成させるわけですが、次回は、計画書改定版の原案ということでお示しし、これを検討委員会の最終答申、委員会として作った答申案を両宮会長から町長へ渡していただく形になります。そこで、本委員会はいったん終了となり、今度は、改定版の案を、町として年明けの2月くらいにパブリックコメントを実施して、ご意見を募り、その意見を踏まえて、3月に最終版を確定していく流れを想定しています。

両宮会長：それでは、終了します。

小林主幹：ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして吉田副会長から挨拶を頂戴したいと思います。

吉田副会長：長時間、お疲れ様でした。ただいまを持ちまして廃棄物処理検討委員会を終了いたします。ありがとうございました。